



Title	臨床哲学 第13号 臨床哲学研究会の記録
Author(s)	
Citation	臨床哲学. 2012, 13, p. 116-119
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21200
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

臨床哲学研究会の記録（所属は研究会開催当時）

≪研究会≫

第 1 回 (1995.10.25)

鷺田清一 (大阪大学教授) : 《苦しむ者》 (homo patiens) としての人間

第 2 回 (1995.11.30)

中岡成文 (大阪大学教授) : 臨床哲学はどのようなフィールドで 働けるか

入江幸男 (大阪大学助教授) : ボランティア・ネットワークと 新しい〈人権〉概念の可能性

第 3 回 (1996.4.25)

フリー・ディスカッション

第 4 回 (1996.5.17)

川本隆史 (跡見学園女子大学教授) : 関東大震災と日本の倫理学 四つの症例研究

第 5 回 (1996.5.30)

池川清子 (北海道医療大学教授) : 看護 生きられる世界からの挑戦

第 6 回 (1996.6.20)

堀一人 (大阪府立刀根山高校教諭) : 「おかわりクラブ」の実験から職業選択から自己実現への道筋

第 7 回 (1996.9.26)

鷺田清一・中岡成文 : 哲学臨床の可能性

第 8 回 (1996.10.17)

小松和彦 (大阪大学教授) : 「癒し」の民俗学的研究

第 9 回 (1997.1.23)

荒木浩 (大阪大学助教授) : 「心」の分節 中世日本文学における〈書くこと〉と〈癒し〉

第 10 回 (1997.7.3)

鷺田清一 : 臨床哲学事始め

山口修 (大阪大学教授) : 音と身

第 11 回 (1997.9.25) 「看護の現場から」

伊藤悠子 (芦原病院看護婦) :

Feverphobia の克服に向けて —Nightingale 看護論に依拠した小児科外来における実践から

西川勝 (PL 病院看護師) : 臨床看護の現場から

第 12 回 (1997.11.27)

小林 愛 (奈良市社会福祉協議会・音楽療法推進室) : 音楽療法をめぐる

第 13 回 (1998.7.2)

パネルディスカッション「学校を考える：『不登校』という現象を通して」

提題者：栗田隆子（大阪大学院生）：不登校を語ること——不登校の「私」性

寺田俊郎（大阪大学院生）：誰が「なぜ学校に来るのか？」に答えられるか

畑 英里（大阪大学研究生）：「学校」という踏み絵

第 14 回 (1998.9.24)

山田 潤（大阪府立今宮工業高校定時制教諭）：

子どもの現在 学校の現在 —増え続ける不登校の問いかけるもの

第 15 回 (1998.12.12)

パネルディスカッション「学校の現在と不在 哲学の現場から〈不登校〉現象を考える」

提題者：栗田隆子（大阪大学院生）

寺田俊郎（大阪大学院生）

畑 英里（大阪大学研究生）

第 16 回 (1999.4.17)

浜田寿美男（花園大学教授）：生きるかたちを伝える場としての学校

第 17 回 (2000.2.19)「哲学教育の可能性と不可能性 高校の授業から」

堀一人（大阪府立刀根山高校教員）

大塚賢司（同志社高校教員）

第 18 回 (2000.7.1)

中島義道（電気通信大学教授）：哲学の教育 対話のある社会へ

第 19 回 (2001.7.14)

西村ユミ（日本赤十字看護大学）：臨床のいとなみへのまなざし

武田保江（大阪際学博士課程修了）：「死体と出会いたし」エピソードをもとに

第 20 回 (2009.12.9)「教材から哲学と教育を考える」

本間直樹（大阪大学准教授）：きく、はなす、かんがえる：西宮市香櫨園小学校の子どもたちとともに

武田朋士（播磨学園）：少年院における対話ワークショップの試み

菊地建至（関西大学非常勤講師）：大学の哲学・倫理学の「教材」の多様さと共通性：「教職」科目を中心に

第 21 回 (2010.2.20) 第 3 回哲学教育合同研究会「教育」

山田圭一（中央学院大学非常勤講師）、土屋陽介（日本大学）、村瀬智之（千葉大学）：

きく、はなす、かんがえる：西宮市香櫨園小学校の子どもたちとともに

豊田光世（東京工業大学院生）：「こどもの哲学と環境倫理教育」

第 22 回 (2010.7.24) 「ネオ・ソクラテイク・ダイローグの起源と実践」

寺田俊郎 (上智大学教授) : NSD の起源—ソクラテスでもネルズンでもなく

堀江剛 (広島大学教授) :

NSD の『現場反省的』活用を考える : 国際共同研究プロジェクト「遺伝対話」の経験から

會澤久仁子 (熊本大学 COE リサーチ・アソシエイト) : NSD による医療の原則と価値の相互理解

本間直樹 (大阪大学准教授) : 対話進行役養成における NSD の効能

第 23 回 (2010.7.24) 「マイナスからの哲学・倫理学教育」

菊地建至 (関西大学非常勤講師) :

日常を哲学すること」をはじめめる・つづけるきっかけになる映像活用授業——実演を中心に

田村公江 (龍谷大学教授) : 大学生への学習の支援のあり方とその困難—専任教員としての経験から

第 24 回 (2011.4.9) 「『ドキュメント臨床哲学』合評会 臨床哲学のこれまでとこれから」

奥田太郎 (南山大学准教授)

菊地建至 (関西大学非常勤講師)

三浦隆宏 (摂南大学非常勤講師)

森本誠一 (大阪大学大学院生)

司会 : 浜渦辰二 (大阪大学教授)

個人発表

大北全俊 (大阪大学助教) : HIV 感染症をめぐる臨床哲学的考察

第 25 回 (2011.7.9) シンポジウム「高校での臨床哲学の試み—過去・現在・未来—」

會澤久仁子 (熊本大学 COE リサーチ・アソシエイト)

紀平知樹 (兵庫医療大学准教授)

藤本啓子 (須磨友が丘高校非常勤講師)

中川雅道 / 洛星高校プロジェクト

報告 : 榎本直樹 (大阪大学非常勤職員)

司会 : 本間直樹 (大阪大学准教授)

個人発表

中西チヨキ (大阪大学大学院生) : 病と看護と語ること聴くこと

第 26 回 (2011.10.22)

辻明典 (大阪大学大学院生)・本間直樹 (大阪大学准教授) : 南相馬と臨床哲学

東暁雄 (大阪大学大学院生) : 手続的正義と規範としての法

森本誠一 (大阪大学大学院生) :

市民参加型社会へ向けた公衆関与のあり方について——英国ビーコンズ・プロジェクトの取り組みを手がかりに

第 27 回 (2012.1.14) : シンポジウム「高齢社会におけるケアを考える」

浜渦辰二 (大阪大学教授)

藤本啓子 (患者のウェル・リビングを考える会 代表)

林道也 (〈ケア〉を考える会代表)

《公開シンポジウム》

第 1 回 (1996.12.13) 「哲学における〈現場〉」

熊野純彦 (東北大学助教授): 死と所有をめぐる〈臨床哲学〉への途上で

古東哲明 (広島大学教授): 臨床の現場 内と外との交差点

池田清彦 (山梨大学教授): おまえのやっているのは哲学だ / おまえには哲学がない

第 2 回 (1997.2.21) 「ケアの哲学的問題」

川本隆史 (東北大学教授): 生きにくさのケア—フェミニストセラピーを手がかりに

清水哲郎 (東北大学教授): 緩和医療の現場—QOL と方針決定のプロセス

コメンテーター: 中野敏男 (東京外国語大学教授)

第 3 回 (1998.2.20)

第一部 テーマ「女性におけるセルフをめぐる」

北川東子 (東京大学): 孤立コンプレックス

吉澤夏子 (日本女子大学): 親密な関係性

コメンテーター: 藤野寛 (高崎経済大学)

コーディネーター: 霜田求 (大阪大学)

第二部 テーマ「国際結婚」

山口一郎 (東洋大学): ドイツと日本のあいだで日常としての文化差

嘉本伊都子 (国際日本文化研究センター): 国際結婚とネーション・ビルディング

コメンテーター: 浜野研三 (名古屋工業大学)

コメンテーター: 熊野純彦 (東北大学)

コーディネーター: 田中朋弘 (琉球大学)